

# チャーターター船に切り替え

中古トラックを輸出販売する山田車輛（倉敷市松江）は今月から、水島港とフィリピンを結ぶ自社専用の貨物船をチャーターし、出荷を始める。これまでは海運会社の定期船を使っていたが、チャーター船に切り替えることで効率的な運用が可能になる。経済成長が続くフィリピンでの市場拡大に対応し、2年後をめどに全社で4割の売り上げ増を目指す。（内田光祐）



ロシアの海運会社・フェスコと提携し、自動車運搬用の貨物船・RORO船（載重量5500ト）をチャーター。大型トラック約100台を積載でき、フィリピン・ルソン島西部のスービック港へ運ぶ。初便は7日に水島港を出港予定。当面は1〜2カ月に1回のペースで出荷し、軌道に乗れば月1回に切り替える。

これまでは神戸港や横浜港、名古屋港から海運会社が運航する定期便で月1回出荷。他の貨物との相乗りとなるため、スペースが限られ1便で10〜30台程度しか輸送できなかった。

山田車輛は、国内の運送会社や自動車販売店、建設会社から中古のトラック、重機を購入し、フィリピン、マレー

山田車輛がフィリピンへ輸出する中古トラックなど＝水島港

## 水島港利用 効率化、4割増収目指す

シア、タイ、ミャンマーなど主にASEAN（東南アジア諸国連合）の現地ディーラーに販売。フィリピン向けが半分以上を占めており、チャーター船の運航により、年間売上高を現在の14億円（2014年6月期見込み）から16年6月期には20億円まで高める計画。

フィリピンでは経済発展や人口増加でトラック、建設機械の販売が伸びており、中でも高品質の日本車の人気が高いという。

山田克浩社長は「水島港を利用することで神戸や横浜から出荷していたのに比べ、国内での輸送コストを大幅に削減できる。輸出の増加をにらみ、中四国地方をはじめとした西日本での買い取りも強化していく」と話している。

同社は1977年創業、96年設立。資本金2千万円。従業員30人。

